東北大学新聞

発行所
東北大学学友会新聞部
川内：川内サークル会館320
片平：法文グラウンド脇プレハブ
電話：217-5010(内線3319)
〒980－8691
仙台中央郵便局私書箱第68号
印刷所　東北大学生協プリントコープ
本号6頁　無料

21世紀COEプログラム

本学から4分野5件が選定

今回選ばれた研究教育計画

◎生命科学分野
「バイオナノテクノロジー基盤未来医工学」

◎化学・材料科学分野
「大分子複雑系未踏化学」
「物質創製・材料化国際研究教育拠点」

◎情報・電気・電子分野
「新世代情報エレクトロニクスシステムの構築」

◎人文科学分野
「言語・認知総合科学戦略研究教育拠点」

＊「学際・複合、新領域」なし

十月、「21世紀COEプログラム」（以下、COE）の採択結果が日本学術振興会より発表された。本学では申請した十二件のうち、四分野五件の研究計画が選定された。東京大学・京都大学の十一件、名古屋大学・大阪大学の七件に続き、採択件数では全国で五位となる。

COEは世界トップレベルの大学の育成を目的とした文部科学省の計画。全国の大学からの申請をもとに、COEで規定された分野ごとに約二十件の研究計画を選定し、資金の重点配分を行う。

本学で選定された研究計画は、「バイオナノテクノロジー基盤未来医工学」（生命科学分野）、「大分子複雑系未踏化学」「物質創製・材料化国際研究教育拠点」（化学・材料化学分野）、「新世代情報エレクトロニクスシステムの構築」（情報・電気・電子分野）、「言語・認知総合科学戦略研究教育拠点」（人文科学分野）である。申請対象の五分野のうち、最も競争の激しかった「学際・複合・新領域」分野では、すべて選考から漏れた。

研究計画の実施は研究部局の壁を越えて立ち上げられた学際的な研究グループによって行われる。この各研究グループの事業には文部科学省から年間一～五億円の研究・教育資金が五年間助成されることになる。

今後は、海外の優秀な研究者を誘致したり、民間や他大学の有識者を含めた外部評価委員会の定期的な視察を受けるなどして、研究目標の達成を目指す。

また、高度な研究と同時に、優秀な研究者の育成にも重点が当てられる。COEに選定された専攻・研究室の博士課程の学生を対象として、奨学金の給付、優秀な学生に対する授業料の免除、海外留学の支援などが行われる。

本学は五年後、選ばれた研究プログラムを現在の担当研究部局から切り離し、新たに設置される予定の国際学際高等センターの統一事業としてまとめる予定。これによって、COEの助成が終了する二〇〇七年度以降も五つの研究教育計画を重点的に継続させていく意向だ。

今回、「生命科学」分野で選定された「バイオナノテクノロジー基盤未来医工学」では、佐藤正明工学研究科教授を中心に、医学系研究科など複数の部局が参加をしている。ナノ技術など先端工学の医療への応用を目指す。実用化されれば、人工感覚器の開発や生体組織の再生への大きな躍進となる。

全国五位の採択件数

一方、「化学・材料科学」分野では二つの研究教育プログラムが選ばれた。一つは山本義則理学研究科教授を中心とした「大分子複雑系未踏化学」の計画である。通常分子と高分子の中間的な大きさを持つ大分子の総合的な研究を行う。バイオ医薬開発などへの応用が期待される。

もう片方は、「物質創製・材料化国際研究教育拠点」の計画。井上明久金属材料研究所所長を中心に、より優れた性能を持った全く新しい物質の開発を行う。

「情報・電気・電子」分野で選定されたのは内田龍男工学研究科教授らによる「新世代情報エレクトロニクスシステムの構築」である。ナノテクノロジーによる半導体・ディスプレイなどの開発を基盤として、高度情報通信社会に即したIT研究を行う。

今回、唯一の文科系となった「人文科学」分野では、国際文化研究科の堀江薫教授らの「言語・認知総合科学戦略研究教育拠点」が選ばれた。幼児期の言語習得と脳の発育との関係などを明らかにすることで、新たな言語科学の創生を目指す。今後、研究が進めば、教育や臨床医学の現場での応用も見込まれる。

COEは、昨年度、遠山敦子文部科学大臣が「トップ30大学」として発表し、今回は第一回目の採択となる。大学間に競争を促すことで国全体の大学レベルを底上げさせようというのが狙いだ。「COEに選定される最大のメリットは名前が上がること。選ばれれば、国際的に有名になり、より優秀な人材が本学に集まるようになる」と中塚勝人工学研究科長は語る。

しかし、選考の審査基準が明らかにされなかったことに対し、学内では不満の声も上がっている。今回落選したある研究部局の関係者は『旧帝大が上位を独占するなど、過去の実績ばかり重視されている。本当に、将来性を見据えた審査をしているか疑問だ』と語る。

凱旋

田中さん 本学訪問

阿部前学長に迎えられる田中さん

十月三十日、ノーベル化学賞の受賞が決定した田中耕一さんが本学の片平キャンパス、工学部キャンパスを訪問した。

両キャンパスとも多くの人が集まり、田中さんを拍手と歓声で迎えた。

田中さんはまず阿部博之前学長を表敬訪問するため、片平キャンパスを訪れ、三十分ほど滞在した。次に向かった工学部キャンパスでは、スピーチ、記者会見を行い、大学時代に研究室に所属していた安達三郎名誉教授と再会した。

（四面に関連記事）

本学電気通信研究所

高密度記憶媒体の開発へ

大容量HDに応用

本学電気通信研究所の長康雄教授は、従来の百倍の容量を誇る記憶媒体の研究を進めている。その内容は、記憶媒体の素材として現在一般的に使われている磁性体を強誘電体に置き換え実用化させることだ。

磁性体を使用した記憶媒体は、N極とS極の二種類の状態を組み合わせることによって情報を記録する。これは、現在CDやハードディスクなどに、広く応用されている。

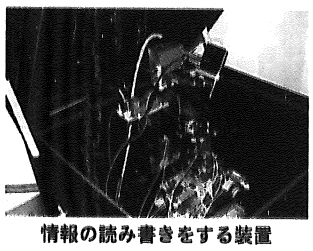
この記憶媒体の記憶密度の限界は、一平方インチあたり約一テラ（一兆）ビットと言われている。

一方、強誘電体を使用した場合、N極とS極に替わり電荷のプラスとマイナスによって情報を記録する。この場合の記憶密度の限界は、一平方インチあたり約一ペタ（千兆）ビット。実際に記憶媒体への応用の際にはこの限界に至ることは難しいが、従来の装置に比べ、記憶容量を飛躍的に上げることが可能だ。

強誘電体を記憶媒体として使用すれば、記憶密度が増加するということは以前からも言われていた。だが、現在でも実用化までには至っていない。その理由は、強誘電体を使用して作られた記憶媒体から情報を読み取ることが困難であったためである。

記憶媒体として使用した場合、磁性体は試料の表面に磁界が発生しているので、それを利用して情報を読み取ることができる。しかし、強誘電体は、試料の表面に電界が発生しないので電荷の状態が調べられず、情報を読み取ることができなかった。

一九九四年、長康雄教授は電荷の状態を調べる装置としてSNDM（機械操作型非線型誘電率顕微鏡）を開発した。当時、これは記録装置に使用するには高密度の情報を読み取る精度があまりにも低かった。だが、現在では研究が進み、電荷の状態を非常に正確に見ることができる。そのため高精度で情報を読み取ることが可能となり、強誘電体を情報の密度が高い記憶媒体に応用することが可能になった。


情報の読み書きをする装置

現在、研究の進行状況は、情報を読み書きできる記憶媒体の試作品を開発している段階である。しかし、実用化のためには、情報を小さい面積に大量に書き込む技術のさらなる向上が必要だ。また、その大量の情報を読み取るためには、記憶媒体が非常に薄くなくてはならない。高性能の製品作成に向けて、これらの課題の解決が、研究の上で目指される。

長康雄教授は「現在の五十倍から百倍の記憶密度を持つものを、五年後には実用化できるようにしたいですね」と語った。

2003年4月

環境科学研究科を設置

学際的な視点から、環境問題に取り組む

本学は、二〇〇三年四月に大学院環境科学研究科を新設する予定だ。現在は概算要求中であるが、この要求が通れば新設が決定される。

この環境科学研究科は、工学研究科を中心に、理学、農学、経済学、国際文化の各研究科および東北アジア研究センターにおいて、環境に関する研究を進めている講座を集めて組織される。なお、この研究科は学部組織を持たない大学院であり、文系・理系を問わず入学でき、来年度より募集が始まる。

環境科学研究科は、文理の枠を超え、次世代エネルギーシステムの構築や地球規模での物質循環を考える「環境科学」という分野を作り出すことを目的とする。さらに、国際舞台でも活躍できる高度な専門知識を持った人材の育成を図る。

環境科学研究科に設けられる専攻は、環境科学専攻のみである。専攻内に「教育・研究組織」と「教育コース」があり、主に前者は研究に携わり、後者は教育に携わる。こうして教育と研究を分離した上で、教官はこれらの両方に所属し、学生は「教育コース」に所属することになる。

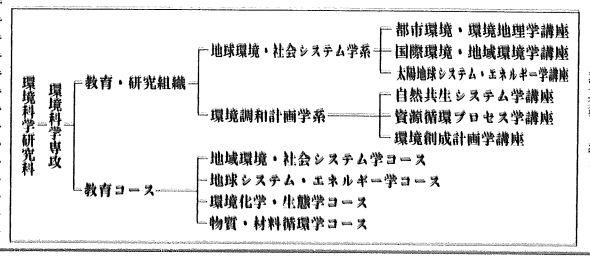
「教育・研究組織」には、都市環境、国際環境、さらには地球環境までを扱う「地球環境・社会システム学系」と、環境への負荷の小さい材料の開発や、人類社会にとって最も効率的なリサイクル技術などを研究する「環境調和計画学系」の二学系が置かれ、さらに各々に三講座が設けられる。

また、「教育コース」は「地域環境・社会システム学コース」など四つのコースからなる。学生はこれらの中から複数のコースを選択することができる。

これらのコースに分かれる前に、入学者はいくつかの共通科目を受講することになる。その一つである「共通科目A」は、文系出身の学生にも無理なく理解できるようなレベルで環境科学がいかなるものかについて概説する。

なお、環境科学研究科の設置と同時に工学部・工学研究科の再編が計画されている。これによって、工学研究科地球工学専攻が廃止され、その一部は環境科学研究科の組織に組み込まれ、中心的な役割を果たす予定だ。また、現在の地球工学専攻の校舎は環境科学研究科として利用される。

環境に対する高い意識を持った学生が一人でも多く環境科学研究科で学び、各界で活躍できる人材となり巣立っていくことが期待される。



HEAD LINE NEWS

二面　IT-21センターの施設完成
三面　ネット授業の配信始まる
四面　シリーズ国立大学改革⑤「受験生獲得戦争へ」
五面　片平まつり開催
六面　フランス滞在記

http://www.angelfire.com/mt/tonpress

IT-21センター施設完成

e-Japan戦略の本格的研究開発開始へ

企業との連携深める

十月十一日、片平キャンパスに二十一世紀情報通信研究開発センター（IT・21センター）の施設が完成し、施設の開所式が行われた。同センターは「e-Japan戦略」の「ITプログラム」分野において、本学に充てられた三件のプロジェクトを実施する。また、産学官連携による共同研究体制を整備していく。十月九日には、「e-Japan戦略」において、共同で研究を行う企業が発表され、本格的に研究開発が始まった。

「e-Japan戦略」とは、IT国家への発展を目指すために政府が打ち出した国家プロジェクトである。ITー21センターは具体的に「次世代モバイルインターネット端末の開発」「超小型大容量ハードディスクの開発」「高機能・超低消費電力メモリーの開発」に取り掛かる。

IT・21センターは研究開発部と企画開発部の二つに分かれ、研究開発部はさらにモバイル分野とストレージ（記憶装置）分野とに分かれる。

研究開発部は「e-Japan戦略・ITプログラム」の研究を、企画開発部は、研究開発部と、その連携する企業を結びつける役割を果たす。

研究開発部モバイル分野の坪内和夫教授、ならびに礒田陽次教授の研究グループは「次世代モバイルインターネット端末の開発」を担当する。

このプロジェクトには、NEC、松下電器、三菱電機、日本テレコムの四社が参加する。

研究開発は、大学と各メーカーの得意分野を生かすために、分担して進める。研究を進め、携帯電話をイヤホンサイズや名刺の薄さまで小型化するブロードバンド超小型無線端末の実現を目指す。

センターの施設が入る建物

ストレージ分野の中村慶久教授および青井基教授の研究グループは日立製作所、東芝、富士通および三菱総研と共同で「超小型大容量ハードディスクの開発」を担当する。このプロジェクトは、大学と企業の研究者が集合して集中的に共同研究を行う。

超高密度ストレージが実現すると、超小型のデータストレージが可能になる。家庭レベルでは、デジタル放送やインターネットなどを通じて送られる膨大な情報を、まとめて管理できるホームサーバーが実現される。

「高機能・超低消費電力メモリーの開発」については、大野英男教授が指揮を執る。

このプロジェクトもストレージ分野と同様に産学集中型で進められる。開発によって、例えば待機時の消費電力がゼロで、かつ瞬時に起動するパソコンが実現する。

一方、企画開発部は、IT・21センターの産学連携による研究開発を推進するために、学外との連携マネージメントや知的財産権の有効運用などを行う。具体的には、企業からのニーズと研究所の技術を結びつけ、両者の関係を調節し、共同研究へとつなげる仕事を担当する。

IT・21センター企画開発部の松岡浩教授は「大学教授は研究成果を世間に広めるノウハウに乏しい。それを補うために企業の力が必要となる。企画開発部も産学連携を円滑に行い、IT・21センターを成功させたい」と話した。

本学多元物質科学研究所

豊田中研と包括的に産学連携

十月十日、本学多元物質科学研究所（以下、多元研）は、トヨタ自動車などが出資する子会社「豊田中央研究所」（以下豊田中研）との間で、「包括的研究契約」を締結した。これにより、多光研の複数分野の研究組織が豊田中研と連携し、研究を進めることが決定した。

協力にあたっては、通信、触媒、酵素など五つの研究テーマが設定された。豊田中研の研究者たちが多元研に出向き、今後の活動を行う。研究連携の予算は豊田中研が全額負担し、年間数千万円が見込まれている。

連携期間は約三年間を想定し、一年ごとに両者が活動成果の評価・見直しを行う予定。現段階では連携期間は三年のみとしているが、期間内における研究実績を検討し、場合によっては延長する場合もある。

豊田中研は以前から、優れた研究成果を取り入れることを目的とし、本学多元研の個々の研究分野と協力関係を持っていた。しかしその場合、協力する分野が限られてしまうという欠点が見受けられていた。

豊田中研・多元研の代表

一方、今回の包括的連携では、本学多元研の複数分野の研究所が豊田中研と協力することになる。多元研が持つ幅広い知的資源や設備を、豊田中研が活用するなどして交流を進めることが可能となり、両者の大きな期待が寄せられている。

研究綿織が個別に産学連携を行う例は、多くの国立大学において以前からあったが、今回のような複数の研究組織が関わる「包括的」産学連携は、全国的に見ても珍しい。本学においても初の試みとなり、画期的なものと評価されている。

企業と連携することで、大学が獲得した研究知識やノウハウを社会に貢献することは大きな意義がある。また、大学が連携により受ける利点も少なくない。

本学多元研の研究推進機構研究推進企画室長の貴志辰夫教授は「今画の包括的連携により外部から情報が得られ、さらに研究に対する刺激を受けられるため、大学研究の質の向上にも繋がる」と語った。

本学工学研究科

新型の水素発生手法を開発

硫化水素と光触媒を利用

本学大学院工学研究科の田路和幸教授が、硫化水素を用いた新しい水素発生手法を開発し、注目を集めている。また新しく開発された光触媒を組み合わせることで、効率良く水素を発生させることが可能となった。

水素は燃料電池として自動車などに利用できるため、石油に取って代わるクリーンエネルギーとして利用価値が高まっている。

水素を発生させる方法として、今までは水を電気分解して水素を発生させていた。しかし今回、田路教授が開発した手法では水の代わりに硫化水素を用い、また分解を助けるために新しく開発された光触媒を用いている。この光触媒を硫化水素に入れ、太陽光を当てると水素が発生するというしくみになっている。

今回の水素発生手法のメリットは、水素を発生させる際に使うエネルギーを抑えることにある。硫化水素の分解エネルギーは、水の分解エネルギーの半分程度であるため、その分水素発生にかかるエネルギーが小さくなる。

さらに、今回の手法では塩素ガスの発生がないため、溶媒として海水の利用が可能であるなど多くのメリットがある。

しかし、硫化水素を用いると、水素を発生させると同時に有害な硫黄が発生してしまう。これに対し田路教授は微生物、地熱エネルギーを利用し、硫黄を再び硫化水素に戻す硫黄循環システムを構想している。

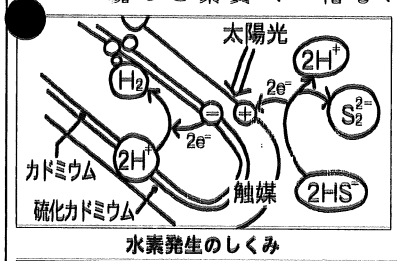
硫黄還元の能力のある微生物はごみ、水、硫黄を取り込み、硫化水素を発生させている。また、火山地帯などでも硫黄との熱水反応により硫化水素が発生する。

それらを供給源とすれば、エネルギーを消費せずに硫黄を硫化水素に戻し、再び水素製造に使うことができる。これにより硫黄が循環し硫黄の増加を防ぐこととなり、環境を考慮した水素発生システムとなる。

また、水素発生の高効率を可能とした光触媒の存在も、今回の水素発生手法の特徴である。これは、ストラティファイド（層状）光触媒と呼ばれるものである。

酸化カドミウム（または酸化亜鉛）をアルカリ溶液中で硫化水素と反応させると、硫化カドミウムが析出する。この硫化カドミウムは、卵の殻状に酸化カドミウムを取り囲む。これに光を当てると、殻の内側にカドミウムがつき層状となる。その後残った酸化カドミウムを、酸性溶液に浸けて取り除き、カプセル状の触媒が完成する。

今後、来年新設予定の環境科学研究科の屋上に水素製造や硫黄循環のトータルシステムのミニチュア版を作り、長期的に実験することを考えているという。このシステムのミニチュア版は実際の二万分の一サイズで、硫黄の循環がうまくいくか、触媒の耐久性などを課題として研究を進めていくという。



水素発生のしくみ

2003年度 大学院 入試データ

経済学研究科

専攻	志願者数	志願者数内訳 本学	志願者数内訳 他大学	合格者数	合格者数内訳 本学	合格者数内訳 他大学
経済学	29	8	21	22	7	15
経営学	22	11	11	15	9	6
現代応用経済科学	15	3	12	10	3	7
計	66	22	44	47	19	28

工学研究科

専攻	志願者数	志願者数内訳 本学	志願者数内訳 他大学	合格者数	合格者数内訳 本学	合格者数内訳 他大学
(機械知能系) 機械知能工学専攻 機械電子工学専攻 航空宇宙工学専攻 地球工学専攻 量子エネルギー工学専攻	263	217	46	210	195	15
(電気系) 電気・電信工学専攻 電子工学専攻	162	120	42	138	114	24
応用物理学専攻	44	37	7	34	31	3
(化学・バイオ系) 応用化学専攻 化学工学専攻 材料化学専攻 生物工学専攻	129	117	12	106	100	6
(材料・物性系) 金属工学専攻 材料物性学専攻 材料加工プロセス学専攻	116	106	10	102	98	4
土木工学専攻	56	40	16	38	34	4
都市・建築学専攻	73	51	22	42	39	3
技術社会システム専攻	28	23	5	23	21	2
計	905	711	194	713	632	81

国際文化研究科

専攻	志願者数	志願者数内訳 本学	志願者数内訳 他大学	合格者数	合格者数内訳 本学	合格者数内訳 他大学
国際地域文化論	15	0	15	10	0	10
国際文化交流論	16	1	15	11	1	10
国際文化言語論	9	0	9	8	0	8
計	40	1	39	29	1	28

文学研究科（秋期）

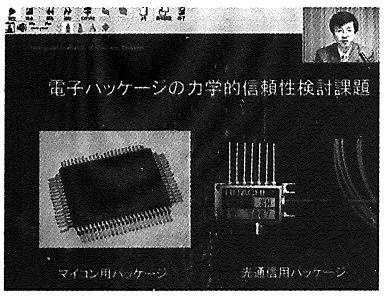
専攻	志願者数	志願者数内訳 本学	志願者数内訳 他大学	合格者数	合格者数内訳 本学	合格者数内訳 他大学
文化科学専攻	8	4	4	5	2	3
言語科学専攻	10	1	9	5	0	5
歴史科学専攻	0	0	0	0	0	0
人間科学専攻	11	5	6	7	4	3
計	29	10	19	17	6	11

インターネットスクール本格的に開講

工学と教育情報学が対象

インターネットを通じて大学院教育を行う「東北大学インターネットスクール」（ISTU）の講義が、十月から本格的に実施されている。今回は本学に在学する修士、博士課程学生を中心に配信されている。

現在、ISTUで開講されているのは、教育情報学教育部と工学研究科で行われている講義の一部だ。特に、工学研究科では修士過程の電子パッケージコース、博士過程のナノテクノロジーコース、エネルギー・環境管理コースなど、コース単位でのまとまったカリキュラムの配信も行われている。



ISTUの講義画面

今回の実施は、教育情報学教育部と工学研究科つのみの開講となったが、将来的には全学が対象となる予定だ。特に、医学系、理学、農学、情報科学、文学の各研究科では、来年の実施に向けて、現在準備が進められている。

また来年に完成する新しい配信システムによって、リアル受講希望者は、各講義を担当する教授の了承を得た上で受講登録を行う。十一月八日の段階で、登録しているのは全開講科目の合計で二十九名。Web上での講義は、一斉に履修登録を行う必要がないため、ISTUの各講義では今後、受講希望者があれば、追加登録を行う予定である。

今回は初の本格実施ということもあって、主に学内に向けて受講者が募集された。今後、学内における実施の反応を受けた上で、学外へ受講者募集の宣伝が行われ、準備が整い次第、科目等履修生として受け入れていく方針だ。

ISTUのメリットである時間と場所に制約されない教育を生かすために、講義の配信は学外に向けて拡大していかなければならない。そのためには、今後の実践を通して技術・制度の両面における課題への解決を積み重ねていく必要がある。

Web上での履修登録始まる

一部の研究科で実施

十月から、文学研究科、国際文化研究科、教育情報学教育部で、学内ネットワークを通して、Web上で履修登録や成績照会などを行うシステムが導入された。今後、他研究科でも順次導入が進められていくほか、来春以降、各学部にも導入されるようになる。また、現在は従来の履修科目届による登録方法と、Web上での登録方法を併用する形をとっているが、二、三年後をめどにWeb登録に一本化する予定だ。

今回導入された新しいシステムは、学内の端末からのみ利用が可能だ。Web登録のページにアクセスし、各部局から交付されるパスワードと学籍番号を入力することで、履修登録や履修内容の確認、成績の照会ができるようになる。

今後、全学に拡大

Web登録はネットワーク上で履修登録を行うため、従来の履修科目届による方式に比べ、様々なメリットが期待できる。

そのひとつはWeb登録では、時間的な制約を受けずに、履修科目の登録申請ができるという点だ。従来の方式では、業務時間にあわせて窓口に足を運ばねばならなかった。

さらに従来の方法では、書き間違えや本来履修できない科目を誤って履修申請してしまうなどの、登録エラーが発生していた。Web登録では、登録申請の時点で誤りが発見されるため、エラー修正の手間が省ける。

もう一つのメリットは、新タイムで講義を配信する体制が整う。これにより、現在のような、あらかじめ作成した講義内容を配信する方法に比べ、ゼミのような形式での活発な議論・交流が期待できる。

その一方で、Web上での講義においては、使われている資料を各受講者が保存・印刷する際に著作権上の制約が生じる、という問題が浮上した。また、目的の画面にたどり着くまでが面倒である、といったページの構造に対する苦情が学生から寄せられている。

ほかにも、現在の講義内容は情報量が多いため一般家庭の設備では受講に向かない、など今回の実施を通していくつかの課題が見つかった。今後、講義資料の別途配布、ページ構成や配信システムの改善による対応が図られる。

ISTUのメリットである時間と場所に制約されない教育を生かすために、講義の配信は学外に向けて拡大していかなければならない。そのためには、今後の実践を通して技術・制度の両面における課題への解決を積み重ねていく必要がある。

方式では従来の方式に比べ、教務側の事務手続きが大きく簡略化できる点だ。このため、従来は一ヶ月近くかかっていた登録事務全体を、より短期間で終わらせることができる。

これは新方式では、学生が登録申請した内容がリアルタイムで全学の教務情報システムに登録されるため。従来の方式では、全学生についてデータを打ち込むなど煩雑な処理が必要だった。

また、新方式では従来に方式に比べ、コストの削減が見らの、自動的にエラーとなってしまうことだ。現段階では、こうした場合には窓口で別途手続きをとる必要がある。

今回のWeb登録の導入は、一九九六年ごろから本学で進められている教務事務の電算処理化の一貫である。すでに、学籍の管理や学生証の発行などが電算化されている。

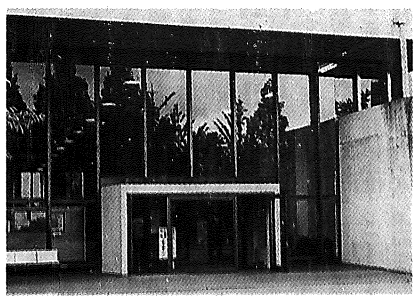
Web登録のアドレス https://kjwebserver.bureau.tohoku.ac.jp/pls/kam_dad/k mwwa.p1020

本学附属図書館

2度目の休日開館を実施

本学附属図書館は十一月より、図書館の休日開館の施行を行っている。これは本年度の五月から七月に行われた試行に引き続き、二回目の実施となる。

これにより、十一月から三月までの毎週日曜日と祝日（二十四日以降の冬季休業中を除く）の図書館利用が可能となる。開館時間は午前九時から午後五時まで（学期末休業中は午後十二時半まで）となっている。


きらなる利用が見込まれる図書館

図書館が二度目の休日開館を試行する背景には、主に前回の試行が好評であったことが挙げられる。前回実施時の入館者数は一日平均で六百人。多いときでは千五百人もの入館者があった。これは、今までの土曜日における図書館利用者の人数と、ほぼ同じという結果であった。

また、学生の強い要望があったことも理由のひとつだ。前回の施行以来、図書館側には「再び休日開館を実施してほしい」「年間を通して休日開館を行う予定はあるのか」などという休日開館を希望する内容の投書や図書館窓口への問い合わせが多く寄せられたという。

前回試行時は入館者数の八十割を学部生、十五割を大学院生が占めるなど、学部生の利用が目立った。主な利用内容としては、図書の貸し出しや閲覧、自学自習の場としての利用など、平日とほぼ同じであった。

図書館側は早ければ来年四月にも、本格的に通年で休日開館を実施したいとの意向である。前回、そして今回の試行はそれに向けての試験的な実施である。学生の勉学環境をより充実させるため、この休日開館に賛同する教職員は多い。

しかし本格実施にあたっては、それにかかる経費が問題となる。特に図書館内に冷暖房を入れる場合と入れない場合では、経費に大きな差が出てくる。今回の施行にあたっては、川内の六つの研究科で負担することとなっているが、経費の負担を抑えるために、開館は暖房を入れずに行うという。

本格実施に際しては、図書館側は冷暖房完備の状態で開館したいとの意向であり、そのための経費は大学全体で負担してほしい、と希望している。こうした問題を踏まえて、実際に本格実施を行うかどうかは、来月に図書館長・副館長・各分館長と各学部の教官とで検討する。

理学研究科

専攻	志願者数	志願者数内訳 本学	志願者数内訳 他大学	合格者数	合格者数内訳 本学	合格者数内訳 他大学
数学専攻	47	31	16	35	29	6
物理学専攻	107	72	35	97	70	27
天文学専攻	23	13	10	13	10	3
地球物理学専攻	38	28	10	28	25	3
化学専攻	79	53	26	65	49	16
地学専攻	46	37	9	37	32	5
計	340	234	106	275	215	60

医学系研究科

専攻	志願者数	志願者数内訳 本学	志願者数内訳 その他	合格者数	合格者数内訳 本学	合格者数内訳 その他
医科学専攻 医学履修課程	103	50	53	99	49	50
障害科学専攻	20	1	19	14	1	13
計	123	51	72	113	50	63

農学研究科

専攻	志願者数	志願者数内訳 本学	志願者数内訳 他大学	合格者数	合格者数内訳 本学	合格者数内訳 他大学
資源生物科学	53	38	15	40	30	10
応用生命科学	76	65	11	62	60	2
資源環境経済学	6	5	1	5	4	1
環境修復生物工学	23	17	6	21	16	5
計	158	125	33	128	110	18

歯学研究科（第1次募集）

専攻	志願者数	志願者数内訳 本学	志願者数内訳 他大学	合格者数	合格者数内訳 本学	合格者数内訳 他大学
歯化学専攻	19	7	12	18	6	2

薬学研究科

志願者数	志願者数内訳 本学	志願者数内訳 他大学	合格者数	合格者数内訳 本学	合格者数内訳 他大学
116	73	43	83	59	24

生命科学研究科

専攻	志願者数	志願者数内訳 本学	志願者数内訳 その他	合格者数	合格者数内訳 本学	合格者数内訳 その他
分子生命科学	53	22	31	40	20	20
生命機能科学	58	26	32	45	24	21
生態システム生命科学	56	11	45	38	11	27
計	1667	59	108	123	55	68

教育学研究科

専攻	志願者数	志願者数内訳 本学	志願者数内訳 その他	合格者数	合格者数内訳 本学	合格者数内訳 その他
総合教育科学専攻	11	4	7	5	3	2

情報科学研究科

志願者数	合格者数
155	122

シリーズ 国立大学法人化

東北大学再編

⑤ 受験戦争から受験生獲得戦争へ

少子化による十八歳人口の減少とともに、大学進学志願者も一九九二年の五百五十九万人をピークに減少の一途を辿る。二〇〇九年には全国の大学の受け入れ人数が実際の進学志望者数を上回る、いわゆる「大学全入時代」が到来すると言われている。こうした社会背景の中、大学や受験生の姿も変化しつつある。変化しつづける大学の姿を追った。

十月、激化する大学間競争の象徴とも言える二つの出来事があった。21世紀COEプログラムの第一回目の発表と筑波大学・図書館情報大学、山梨大学・山梨医科大学の二組みの国立大学の統合である。

一連の大学改革によって、これまで国の庇護下のもとに置かれていた日本の大学に厳しい市場競争の原理が導入されつつある。その流れをさらに進めているのが、少子化による学生数の減少である。

実際、既に短期大学を中心に入学試験で定員割れを起こす大学が続出している。二〇〇二年度、一部の学部で定員割れをした国公私立大学は全体の三十五%にも及ぶ。大学進学自体が困難であった「受験戦争」の時代から、誰でも進学が可能な大学の大衆化の時代に変わりつつある。

そんな中で、大学選びにこだわる受験生も多くなった。長引く不況で大卒の就職率も低迷を続ける。いい大学を卒業したからといって就職先が見つかるわけではない。そんな思いから、受験生の意識も多様化し、自らの志望する専攻の将来性や実学の重視する方向へと変化しつつある。

大学全入時代へ

一時期、人気傾向にあった大学のIT関連の学部も、アメリカでITバブルが弾けて以降、人気低迷が続く。それに反して、現在ではナノテクノロジーや環境、保健衛生学分野に人気が集まる。

受験生の実学志向も強くなっている。特に、二〇〇四年に全国で一斉に開設される法科大学院（ロースクール）に受験生の注目が集まっている。法科大学院は法曹関係者の養成機関として司法試験の突破を目指した教育を行う。本学でも法学研究科内で設置予定だ。従来、難関と言われていた司法試験への扉が大きく開かれるということが受験生の目には大きな魅力に映る。これによって、全国的に法学部の受験者数が増えている。

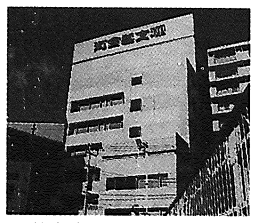
受験生を意識した改革が進む

こうした受験生の動向に大学側や予備校産業も敏感に反応している。特に、二〇〇四年の法人化による独立採算制の導入によって、国立大学といえど、学生が集まらなければ経営難に陥る。学生にとって魅力ある大学を作らなければ、国公私立問わず、廃止・倒産は免れない。

そこで、各大学では、入試の多様化、学部学科の再編・新設など、学生の確保に躍起になる。入学試験では現在、筆記試験を課さないで面接や作文で合否判定するAO入試が注目されている。個性的な学生を選抜するという触れ込みだが、実際には、受験機会を増やすことでなるべく多くの学生を確保したいというのが大学側の本音だ。

また、現在全国の大学で学部学科の再編・新設が相次ぐ。二〇〇三年度に学科の新設を行う大学は全体で三十にも及ぶ。本学でも二〇〇一年の生命科学研究科、二〇〇二年の教育情報学教育部・研究部や工学研究科の技術社会システム専攻、二〇〇三年設置予定の環境科学研究科など、新設ラッシュが続く。時代のニーズに合った、国際的にも魅力溢れた大学づくりを目指す。

一方、受験生を大学に送り出す予備校側もこうした受験生の意識変化や大学の動きに注目している。大手予備校・河合塾では二〇〇一年に、「大学ランキング」を作成した。従来の大学の格付け基準であった偏差値からではなく、ISI論文引用数や科学研究費の交付順位、専門家の意見などを総合化して評価を行ったものだ。素人にはわかりづらい大学の研究実績を少しでも、わかりやすい形で発信しようという試みである。


仙台市内の大手予備校

受験生はこうしたランキングなどを参考として、慎重に大学選びを行う。さまざまな受験生のニーズに合わせて、多様化を続ける大学を、もはや、偏差値のような一定基準で測れることはできなくなっている。

「もはやブランドや偏差値だけで大学が立ち回れる時代ではない。研究・教育で努力している大学だけしか今後は生き残れないだろう」と予備校関係者は語る。

大学が受験生を選ぶ時代から、受験生が大学を選ぶ時代へ。日本の大学には魅力がないと、海外へ留学する受験生も少なくはない。本学が伝統的に掲げる「研究第一主義」が、世界的規模の大学競争の時代でどの程度通用するのか。今後の本学の取り組みが注目される。

草の根文化交流

第17回 国際祭り開催

十月二十日、仙台市青葉区三条町にある東北大学国際交流会館において、第十七回東北大学国際祭りが行われた。今年のテーマは「ONE WORLD ONE FAMILY（一つの世界 一つの家族）」。当日はあいにく雨だったが、多数の人々が訪れて留学生との交流を深め、外国の珍しい文化に触れた。

会館内の特設展示場では、ネパールやインドネシアなどの風景写真や民族工芸品が展示され、訪れた人々は興味深そうに手に取って眺めていた。

ステージ上で民族音楽を披露

屋外会場では、中国、韓国、ドイツ、バングラデシュ、イラン、日本など二十数カ国のテントが並び、留学生やその家族、ボランティアが各国の民族料理を紹介した。中には、タイのヌード蛇の列を作るテントもあった。

異国の風、感じる

また、野外特設ステージでは、各国の歌やダンス、楽器演奏の披露のほかに、民族衣装のファッションショーなどが行われた。各国の芸能を一目見ようと、傘を片手に多くの人々が人垣を作った。

午後六時半から午後十時半までは会館内でダンスパーティーが行われた。会館のロビーに響き渡るテンポの良い音楽に合わせて、多くの人たちが汗だくになるまで踊り、盛り上がっていた。

この国際祭りを主催している東北大学留学生協会は例年、ボランティアの参加を呼びかけている。今年は仙台の日本人大学生や高校生、社会人など約八十人が会場準備や料理の下ごしらえなどを手伝った。ボランティアの輪は年々広がってきていて、今年は筑波大学の学生も参加している。

国際祭りは外国文化の一端に触れることができる非常に良い機会である。例えば、気に入った民族料理のレシピを直接教わることもできる。外国語に自信がなくても、多くの留学生は日本語もうまく話せるので会話の心配はいらない。今年行けなかった人は、ぜひ来年足を運んでみてはどだろうか。

ノーベル賞受賞の田中さんに

本学名誉博士号を授与

「ドクター」の肩書へ

十月三十一日、ノーベル化学賞の受賞が決まった本学工学部卒業の田中耕一さんへの学位記授与式が行われ、本学の名誉博士号が与えられた。場所は東京都千代田区の経団連会館で行われ、同時にノーベル化学賞受賞祝賀会も催された。

学位記授与式には急きょ遠山敦子文部科学相も出席した。集まった本学OBの見守る中で、田中さんに阿部博之前学長から本学の名誉博士号が授与された。

今回の名誉博士号授与は田中さんが「生体高分子の同定および構造解析のための手法の開発」を受賞理由としてノーベル賞受賞が決定したことを受け、本学が決定したものである。

田中さんは一九八三年に本学工学部を卒業しているが、博士号は持っておらず、学位としては学士にとどまっていた。

田中さんは一九七八年に本学に入学した。大学では工学部電気工学科、安達研究室に所属し、「損失性媒質とダイポールアレイの組合せによる平面波の吸収（テレビ電波ゴースト防止）」というテーマの卒業論文を残している。

学生時代の田中さんは、教養部にいた時においては、ドイツ語の単位を落とし、二年生を二回経験するなど特に優秀というわけではなかった。

学部に入ってからは、優秀な成績を修めていた。目立たない学生ではあったものの、先輩の言うことをあまり聞かない我の強いタイプだったという。

田中さんの受賞について、田中さんが所属していた安達研究室を受け継いだ澤谷邦男教授は「直接面識はないし、目立たない人だと聞いてすごく驚いた。卒論とは、大学は過剰利用を行った人物についての調査と出版社への報告、および再発防止措置を行わなければならない。

今回のような過剰利用は、電子ジャーナルのサービスが始まった一九九九年度ごろから何度か起こっている。そのようなときは、IPアドレスなどをもとに、過剰利用を行った人物の所属する部局を特定し、その部局が人物を特定、注意をしていた。

これまでの事例では、利用者が契約違反だとは知らずに大量ダウンロードを行っていたということが多かったという。

今回の過剰利用による使用停止および警告の対象となる。使用停止を解除してもらうには、「このようなことが起こらないようにするには、利用者に著作権の常識を持ってもらうように注意を呼びかける以外ない。図書館では、今後もより多くの電子ジャーナルを利用可能にしていく予定なので、利用者にはネチケットを守って利用していただきたい」と語っている。

ノーベル賞を受賞した研究は直接関係ないが、ノーベル賞受賞にあたっては、実験した結果が常識とは異なったものであったときも、柔軟な発想で取り組んだことが良かったのではないか」と語った。

学位記を手にした田中さん

また、田中さんは十月三十日に本学を訪問した際、本学の客員教授の要請を承諾している。どの学部、学科で教えるかなどの詳細については、まだ決まっていない。

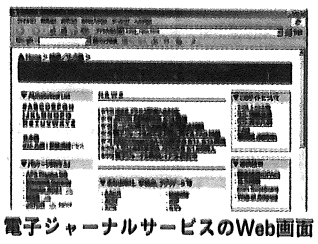
本学附属図書館 電子ジャーナル

閲覧サービス一部停止

大量ダウンロードに待った

本年八月に、本学附属図書館が行っている電子ジャーナルの閲覧サービスが、契約出版社の一つであるAIP（American Institute of Physics）社から、使用停止処分を受けた。これは今年度に入ってから三回目のもので、同社の電子ジャーナル本文全体が過剰に利用されたことが原因である。

電子ジャーナルの閲覧サービスは、図書館と契約している出版社の雑誌の内容を、ウェブ上で無料閲覧することができるというものである。利用者は、学内のパソコンから図書館のホームページにアクセスし、その中のリストから雑誌を選択することで内容を読むことができる。扱っている雑誌のほとんどが海外出版社のもので、自然科学系の雑誌を中心に、現在では約三五〇〇種が閲覧可能となっている。


電子ジャーナルサービスのWeb画面

電子ジャーナルの利用の際、文章全体をダウンロードすることは、著作権保護の観点から、必要な論文単位に行う場合にのみ認められている。そのため、今回のような、短時間に号全体をダウンロードするなどの行為は、出版社側から不正利用と疑われ、使用停止および警告の対象となる。

片平まつり2002開催
最先端技術を楽しく学ぶ

体験企画が好評

十月二十七・二十八日の二日間にわたり、「片平まつり2002」が、片平キャンパスと星陵キャンパスにおいて行われた。参加した研究所および研究センターは、金属材料研究所、多元物質科学研究所、加齢医学研究所、流体科学研究所、電気通信研究所、東北アジア研究センターである。

片平まつりは各研究所および研究センターで普段、行われている研究を、展示と実験により一般市民に公開するイベントである。開催された二日間は土・日曜日だったため、キャンパス内では学生だけでなく高校生や親子連れも多く見られた。

公開された研究の内容は、専門性の高いものとなっていた。金属材料研究所では水素を使ったエネルギーで動く燃料電池、自動車の展示が行われていた。ここで利用されているのは、水素と大気中の酸素を化合させるとエネルギーが発生する仕組み。このエネルギーを利用して、排気ガスの出ない自動車や飛行機、船舶などを動かす構想を発表していた。

流体科学研究所には、胴体の両側に翼を付け、地面から、わずかに浮いて走る乗り物である「エアロトレイン」の原理や模型などが展示されていた。「エアロトレイン」は地面効果（地面の近くを翼が移動するときに、圧力差が生じ、翼に浮力が働く効果）を使っているため太陽電池と風力発電だけで走ることができる。

一方、身近な工学的現象を利用した体験型の企画も多く行われた。グラウンドでのペットボトルロケット手作り体験は子供たちに人気が集まった。完成したロケットが空へ向けて打ち上がるたび、歓声がわいた。

多元物質科学研究所の高分子化学の技術を利用してスライムを作る企画や、技術室（ガラス工場）でのガラス細工体験など記念に作ったものを持ち帰ることができる企画も親子連れに好評だった。しかし中には、娯楽中心となってしまい専門的な分野の内容が薄れてしまった企画もあった。

また電気通信研究所では、本学からの卒業生でノーベル化学賞受賞者となり、田中耕一さん（島津製作所）の大学時代の写真や卒業論文の展示というものも見られた。この企画は年齢を問わず好評であったが、卒業論文に関しての内容説明がなかったため、専門知識を持たない人には分かりづらかった。

今回は二〇〇〇年に行われた「片平まつり2000」に比べ、市民への「楽しくわかりやすいイベント」が多く用意されていた。片平まつりに訪れた人が公開実験など何らかの形でそこで研究している内容に触れ合う機会が多かった。

多少研究の内容が薄れてしまった企画もあるが、一般市民に世界の第一線で活躍する各研究所および研究センターの活動内容と成果を分かりやすく説明するという、片平まつりの本来の意味を成し遂げていた。子供たちにとっては、世界に通用する最先端の科学に触れるだけでも得るものがある。未来の科学者たちを育てるためにも、本学はこういった企画を定期的に行うべきではないか。

東北アジア研のイベント

たった2人の深夜マラソン
とってもさみしい15km

仙台の風も身に染みる、またこの季節になった。秋の風物詩、深夜マラソンの時期だ。毎年数百人もの東北大生が思い思いの姿で真夜中の仙台をひた走る。その様は、正に百鬼夜行。今年はどんな格好で走ろうか…。えっ！何だって？中止？

主催の応援団の人員不足か、時代の流れなのか、はたまた何者かの陰謀なのか、今回の大会は中止に追い込まれてしまったそうな。残念。

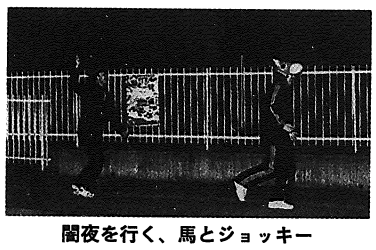
永遠なれ、深夜マラソン。今年は俺がコース（※）を巡り、在りし日のお前を追悼しよう。伝統の灯火は消さない。

だからといって、一人で走るのは寂しい。工学部体育館前に立つ俺を待ち受けるものは何もない。今年は、日ごろ鍛えた健脚を競う者もいない。奇妙奇天烈、摩訶不思議な仮装で己の存在を誇示する者もいない。あるのは満天の星空、冷えた空気、夜の静寂、馬。…馬？

「俺も走るっすよ」馬の被り物をした深夜マラソン未経験の一年部員のTだ。どうでもいいがその変な被り物をどうにかしてほしい。こいつと走るのか…。

しかし、こんな奴に負けてはいられない。俺も去年はマージャン牌を模した段ボール箱を被り完走した馬鹿者だ。血が、あの時の血が騒ぐ。それでは俺も原付メットを被り、怪しげな学生服を身に付け、エセジョッキーに変装完了。右手には懐中電灯を、左手に鞭を。この変な馬を鞭打って、深夜マラソンへの生贄に捧ぐ。行くぞ、スタートだ！

意気揚々と走る俺たちに、すれ違う人々の冷ややかな視線が刺さる。そうだろう。夜中にこんな連中と会ったら妖怪や物の怪の類と勘違いする。それでも俺らは負けない。今までの大会ではこんな視線は無視してきたじゃないか？冷たい目すらも明日への糧に、今宵も変態が夜を行く。


闇夜を行く、馬とジョッキー

俺たちは快調に飛ばし、地獄坂に至る。ここは去年の大会で段ボールを脱ぎ捨て地面に叩き付けた、俺にとっていわく付きの呪われたアウターゾーン。さすが鬼が棲まう坂である。過去の深夜マラソンで何人のランナーを食い物にしたのだろう。二人とも歩みが止まる。大丈夫かと馬に聞くが、「走っている間に髭が伸びた」と、意味不明のことを口走る。命に別状はないだろうから聞き流す。どうやら奴も相当参っているらしい。

坂を登りきり再びスタート地点が見えてきた。だが馬が走るのを嫌がる。まだ半分です。仕方がないので、鞭を入れ無理やり走らせる。二周目に突入。

だが俺も疲れている。頭のネジの数本は既に彼方に飛び去り、鞭を握る手にも力が入らない。二周目の記憶など犬の肉球くらい、どうなってもいい。薄れた記憶で足を引きずりつつ、誰も待つことのないゴールにへたり込む。

メットで蒸れた頭が風にあたり涼しい。やはり深夜マラソン、お前は偉大だ。苦しさの先に仲間と分かち合う満足感がある。だが名も知らぬ人たちと肩を組んだ去年の感動はもうここにはなかった。

だからお願いがあるんだ。来年は復活させて皆で走ろう。

（※）工学部体育館前をスタートし、扇坂、大橋、仲ノ瀬橋、地獄坂を経て工学部に戻るコースを二周、全長十五キロメートルを駆ける。

丼を制する者は大学を制する

時は平成。この太平の時代に乗り遅れた二人の漢がいた。今となっては旧世紀の遺物とも言える大和魂を心に秘めた二人であった。彼らは厚生会館、丼コーナーの全種類を制覇し、立身出世を目論んでいたのである。

まず二人は入り口にあるメニューのサンプルを見た。「むっ、七種類しかない。これはいける」彼らは内に秘めていた自信を確信に変えた。早速、注文を待つ列に彼らは並んだ。まるで不動明王のような恐ろしい形相で、順番が来るのを今か今かと、待っていた。

二人のうち、背の高い方が先に注文をし、そして一杯目を受け取った。一杯目は唐揚げ丼であった。甘口のたれのかかった唐揚げと、きざみ海苔だけというシンプルな丼である。その背の高い男は一杯目をもの凄い勢いで掻き込んでいく。ただ一言、「甘すぎる」と呟いただけで。

もう一人の男も、相方が食べ終わるころには、一杯目にかぶりついていた。この男、上背はそれほどでもないが、しかし、驚くほどの筋肉隆々な体をしていた。そして、目にも留まらぬ速さで丼を食らっていく。味噌カツ丼を食べているようではあるが、もはや、その原型はない。

背の高い男は既に二杯目に入っていた。カツ丼である。その食いっぷりから考えると、まだまだ順調なようである。最後に、また一言「薄味だ」とだけ呟いた。

筋肉男の方も二杯目に突入していた。マグネーズ丼である。「これはうまい。ハッハッハッ」と笑いながら食べている。だが、相変わらず驚異的なペースで食らっている。

豚マヨネーズ丼。これが背の高い男の三杯目である。まだ食べるペースは変わらないが、着手、苦しそうである。彼の胃袋は銀河系止まりのようだ。残念ながら、宇宙には及ばない。

なんとか三杯目を食べ終わったあと、彼はコーヒー休憩に入った。コーヒー？彼はあまり頭がよろしくないようだ。大食いするなら飲み物は厳禁のはずだ。コーヒー休憩から戻ってきた彼は、また一言呟いた。「宮崎あおいの応援があれば！」と。

そのときまでには、筋肉の方も三杯目のカルビ丼に入っていたが、きすがに箸が進まない。やはり、この挑戦は無謀過ぎたのだろうか。だが、後れしながらも四杯目の親子丼を注文し、そして、戦っていた。彼は突然、「つわりっ」と呟いた。どうやら、丼の匂

東北大闘魂列伝
強さへの地平線
⑧柳生心眼流柔術編

この局面に及び、彼が不可解な行動をし始めた。彼いわく、秘孔を突き始めたのだ。すると、奇跡が起こった。彼の食べるペースが前以上に速くなったのだ。彼は、なんと筋肉だけでなくそういう道にも精通していたのだ。驚きである。

きて、背の高い男の方は気絶し、扇坂、大橋、仲ノ瀬橋、地獄坂を経て工学部に戻るコースを二周、全長十五キロメートルを駆ける。

流れるような関節技に、鋭い当て身。合戦の中で磨かれた、実戦技の数々。当時は門外不出であったものが、光が当たるのを避けながら、現代まで受け継がれている。その闇に包まれた「強さ」とは何か。その答えを求めて、柳生心眼流柔術の門を叩いた。

柳生心眼流柔術は、竹永隼人という人物によってつくられた。彼は、東北各地にあった神道流、神陰流、首座流、戸田流の四つの柔術を学び、心眼流を創設した。その後、江戸に上って柳生流を学び、その要素を取り入れ、柳生心眼流と名を改めた。後に、仙台藩の足軽に享受され、近代に入って、県北一帯に広まり現在に至る。

柳生心眼流柔術の稽古は、型を主体としている。二十一本ある基本型を、何千回、何万回と繰り返すことで体に染み込ませるのだ。この際、稽古は甲冑を装備しているという想定の下で行われる。そのため、当て身は甲冑における隙間、具体的には、のど、脇、目などを狙う。この修行を続け、段位が上がると武器を使用するようになる。

この型稽古は、まず一人で形を学び、次に二人一組で行う「組稽古」によって行われる。上達すれば、当て身の多い型に発展する。また、この型は複数を相手としても適用は可能だという。

ここで一つの疑問が生ずる。

流れるような極め技

『自然さ』です。不自然さのなさというか、普通さです。それが、強さなのか今はまだ分からないけど」。

人間、あらゆる状況下において自然体でいることは決して簡単ではない。それこそが、命懸けの戦いの中で、我を失わずに相手と対峙してきた柔術が、今に伝えた強さなのかもしれない。

「僕の目指しているものは、

その秘技の数々を今に伝える者の思う「強さ」とは何か、師範代の種石悠さんは、こう答えた。

「僕の目指しているものは、『三光の構え』と呼ばれる独特の構えによって威圧された。

技は現代でも生きていた。かわされた。かといって受けるだけではない。脇への肘打ち、のどへの当て身などの多彩な技に圧倒された。一度技がきまると間合いを取り、間合いを変えられ、りも同様に間合いを殺され、足をすくわれてしまった。回し蹴り、蹴りは間合いを殺され、足をすくわれてしまった。

こちらが胸ぐらをつかみかかると、瞬く間に手首の関節を極められ、抑えこまれてしまった。では、突きはどうか。突き出した拳は、体捌き（たいきばき）によってかわされて空を切り、その後手首を見事に極められてしまった。前果たして型の稽古だけで実戦への対応はできるのか。実際にその技の一部を垣間見ることができた。

こうして、二人は丼コーナーの全種類制覇を成し遂げ、さらに、づけまぐろ丼まで食べげていた。恐ろしい男である。

づけまぐろ丼を買ってきて、相方とは裏腹に楽勝といった感じで軽々と、四杯目を平らの局面に及び、彼が不可解

差し迫った状態にいるようだ。その証拠に十秒に一回は身悶えしている。

だが、彼は最後の力を振り絞り、親子丼との戦いに終止符を打った。彼は戦いに勝ったのである。そして、叫んだ。「敵将、討ち取ったー」と。

「おまえこそ真の三国無双よ！」と声を掛けてやりたかったのは、言うまでもない。

秘孔を突いた筋肉男の方は止まることを知らない。偶然、

開催していた生協まつりで、

と呟いた。「別腹は存在する」

書評

僕、はまじ

浜崎 憲孝 著

もしも自分の人生の一部が漫画化されたら、いったいどんな気持ちになるのだろうか。実際にそうなった人は少ないが、もしも家の近所の本屋にそんな自分の漫画がおいてあったら、私なら興奮してしまうかもしれない。

そんな漫画の登場人物になったのが、本書の著者である浜崎憲孝である。著者の名前だけを聞いて何の漫画か分かるだろうか。ヒントは著者の名字である。

名字が同じなので「釣りバカ日誌」の主人公を想像した人もいるかも知れないが、残念ながらそうではない。答えは『はまじ』である。そう、『はまじ』というあだ名が付いたかをご存知だろうか。実は『はまじ』というのは「はまちの養殖」から付いたあだ名だそうだ。しかし、どこから「はまちの養殖」が出てきたか、については本書のなかでは記されていない。まあ、どちらにしても個性的でダサいあだ名であることには変わりはないが。

著者の人生は漫画の中に見られるのどかなイメージとは違って、波乱万丈である。早くに父親を亡くしたこと。小学校のプールの授業を、海パン姿で裸足のまま校外に脱走したこと。漫才師を目指して、高校を中退して上京したこと。そして、西川のりおに直接会って弟子入りを志願して断られたこと。あと、洗濯屋ケンチャン（ノーカット）の思い出（何のことか知りたければ本書を見るべし）。

この他にも様々なエピソードがつづられてあるが、紙面の都合上、割愛させていただく。

この本には前述した部分など声を出して笑える個所もあり、確かに面白い部分もある。しかし、本書は結局著者の人生を羅列してあるだけなので、著者の自己満足に終わっている部分も否定できない。正直、「ちびまる子ちゃん」のネームバリューを利用しているだけのようにも感じられる。この本を読んだ後に読者が本から得られるものは非常に少ない。

しかし、著者と同じように自分の過去を思い出して何かに記述する、というのは面白いことである。私も親や友達に聞いてやってみたのだが、子供のころの意外な自分を知って楽しくなった。著者も本の終わりで「この本を書くために、自分の過去を思い出す必要がありました。すると、よくあんなことをしたなあ、ということばかりで驚きました」と、自分の過去を思い出すことへの楽しさを述べている。

自分の人生を、さくらももこのように漫画化できればどんなに楽しいことだろう。文章だと自己満足で終わってしまうが、漫画にすることで自分以外の人（主に子供ではあるが）にも楽しんでもらえるからである。しかし、自分一人で楽しむ分ならこの本の著者や私と同じように文章化するだけで十分である。暇な時間があるのならば、一度やってみることをオススメする。

辛かった自分を哀れむのもよし。楽しかった自分を懐かしむのもよし。貴方の過去はきっと貴方に探してもらうのを心待ちにしているに違いない。

「ちびまる子ちゃん」の中で登場する、あの『はまじ』である。漫画ではずっと小学三年生を演じている彼だが、現実の著者は今年で三十六歳になる。

本書はそんな『はまじ』こと浜崎さんの三十六年間の人生を赤裸々につづったものである。さくらももこが自分の人生の一部を漫画で書いているのに触発されて、著者はこのような本を出版しようと考えたのだそうだ。

ちなみに、なぜ彼に『はまじ』というあだ名が付いたか、については本書を見るべし。

フランス滞在記

フランス人と労働

フランスは女の子の憧れの国だ。お上品なフランス語に、華やかなファッション界、フランスパンにカフェ・オレ…。そんな勝手な偏見に後押しされ、フランスに降り立った私が見たものは、豊富な移民に汚い舗道、変な漢字が書いてある服を着たパリジェンヌ…。とはいえ、よその国とは楽しいもので、日本との違いを見つけては面白がる毎日だった。そんな中、就活前の私を唸らせたのが、フランス人の働きっぷりだった。

一般に、フランス人はバカンスのために働く、と言われている。つまり長期休暇で心置きなく遊ぶために、一年間頑張って稼ぐのである。要は自分のために働くのだ、という意識がとても強い。だから具合が悪ければ無理をしない。医者の診断書があれば、会社を休んでも有給になるように法律で定められているからだ。だから無理な働き方はしないし、働く姿も往々にして楽しそうだ。

昼下がりの小さなカフェに行くと、暇そうなウェイターが常連客と無駄話をしている。無理に仕事を探さないのが、フランス流だ。これは知人の人はさわやかに、じゃあ明日からは自分でやってくれと言ったそうだ。フランス人はこういうときに悪びれもせず、卑屈にもならない。店の人が休憩をとるのも、休憩中に働かないのも当然で、それは客が居ても関係ないのだ。

パリの平日

また、ほとんどのフランス人は決して日曜に働こうとはしない。キリスト教の安息日だからだ。何も考えず、日曜にふらりとホテルを出ると、昨日とはガラリと変わった活気のない街が広がっている。人影は非常にまばらで、今まで気にならなかった舗道のタバコの吸殻や犬の糞がやたらと目につく。店はどこも閉まっていて、やることもないので、興味もない美術館に足を運ぶことになる。日本人はやたらと美術館を回っていて、本当に絵画が好きなんですねと、あるフランス人は言っていたが、その見解は間違っている。多くの日本人観光客が週末に美術館に行くのは、この退屈な日曜の使い方が分からないせいだと私は思う。そもそも日本人としては、折角ヨーロッパに来たのに、日曜とはいえ、フランス人のようにゴロゴロするなんて勿体ない、と考えるのが普通だろう。

しかし一方では、休みなく働くエリートフランス[illegible]少なくは『創生応用医学研究センター』です。

同号三面「本学医療技術短期大学部廃止」の記事中に誤りがありました。医療技術短期大学部の看護学科では「看護士・保健士どちらかの国家試験の受験資格しか得られなかった」とありましたが、正しくは「看護士の国家試験の受験資格しか得られなかった」です。

ここに誤りを訂正するとともに、関係者の方々に御迷惑を掛けしましたことを心から謹び申し上げます。

おわびと訂正

本紙三二〇号一面「川内キャンパスを大幅整備」の記事中に誤りがありました。以下にその内容を記します。

「五月に市が仙台城址全域を国史指定にするように要望している」という個所に対し、大学から、「市が全域指定を国に申請している、というような話は聞いていない」との指摘がありました。これに対し、当部が市に確認したところ、「（全域指定について）内内諾を得ている状態である」との回答を受けましたが、市は国に対し、全域指定を正式に申請してはいませんでした。

また、同記事中に文系キャンパスについて「植物園方面への移転を現在検討中である」との記述がありましたが、そのような事実はありません。

同号二面「東北大学再編④」の記事中に誤りがありました。「各研究部局で進む改革」の医学系研究科についての説明の中に「創成医学応用センター」とありますが、正し[illegible]

イベント情報

◆東北大学リコーダーアンサンブルコンサート
十一月二十四日(日)　開場午後三時三十分、開演午後四時。／仙台愛泉教会
主催・学友会リコーダーアンサンブル部／演奏曲目・J・S・バッハ「フーガの技法BWV1080」より、ほか
入場料・無料／問い合わせ・090（5694）2794（田中）

◆東北大学学友会邦楽部第四十七回定期演奏会
十二月七日(土)　開場午後一時、開演午後一時三十分。／戦災復興記念館
主催・学友会邦楽部／三絃、琴、尺八を用いた演奏会
入場料・無料／問い合わせ・090（5823）3769（白井）

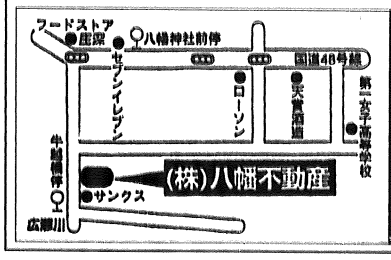
◆東北大学学友会吹奏楽部第二十四回定期演奏会
十二月十四日(土)　開場午後四時、開演午後四時三十分。／川内記念講堂
主催・学友会吹奏楽部／演奏曲目・バレエ組曲『ヴァレンシアの寡婦』、吹奏楽のための交響的印象「海響」、オズの魔法使い、ほか
入場料・三百円（小学生以下無料）／問い合わせ・090（9746）9217（坂田）http://www.tohoku-wind.org/teki/ Email:teki-info@tohoku-wind.org

編集後記

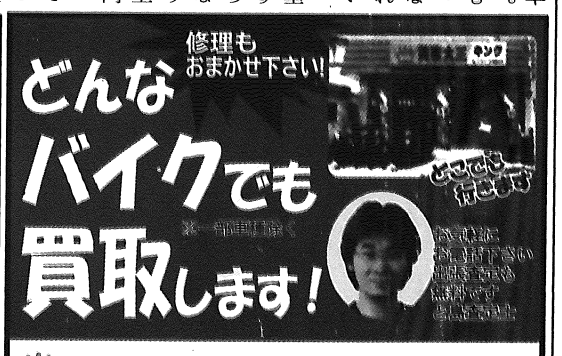
今年は冬の訪れが早い。もう、雪も降った。ある晩のこと、鍋でも作って暖まろうと思ったが、家に誘うような親しい友人などいない。作れない。そこまで心を許せない▼大根やら白菜やらに鳥を、土鍋にいれて温める。腹を空かせた客もいない。ゆっくりと温まっていく鍋を、しばらく呆けたように見る▼こんな時、普通は何をするのだろうか。恋愛相談でもして盛り上がるのだろうか。僕は鍋に向かって打ち明けた。「大学一年次から三年間、想い続けている人がいる。しかし、その人にはすでに相手があり、決して叶わぬ想いである」▼鍋が何かを答えるはずはない。僕は鍋の代わりに答える。「告白してしまえ」「嫌われたらどうする」「さっさとけじめをつけろ」「そんなことは出来ない」「臆病者が」「ああ、そうだ。けれども忘れることがどうしても出来ない」「馬鹿野郎」「ああ、大馬鹿だ」会話が弾む▼その内に鍋が出来上がった。食えば自然と独り言も止まる。まずくもないが、大してうまくもない。黙々と食う。食いながら考える。「どうにもうまくいかない。人を相手にすると言葉が自然に出てこない」臆病ならば勇気を奮い立たせればいいだけだ。問題はそれ以前に、言葉が出せないことだ▼自分は、自らに無力で卑怯な人間だ。しかし、だから一人でいろ、というのは、残酷ではないだろうか。私は時間が解決すると鍋につぶやき、テレビをつけた。無力で卑怯な逃げ道だ▼一連の独白の間、僕はずっと一人で笑っていたのだと思う。いつもより大きな声で笑う僕は、離れた所からみると、少し気味が悪い。しかし、怒ろうにも、哀れもうにも、無力さばかりがただ募る。今すぐどうしようもない話は笑うしかない。（アユ）

学術書・文芸書など古本
誠実売買いたします。
昭文堂書店
東北大北門前　青葉区一番町1－5－8　☎223－0526
http://homepage2.nifty.com/syoubundou/

電話予約24時間可
はちまん歯科医院
診療時間
月～金　9:30～19:00
木・土　9:30～18:00
休診日　日曜日・祝日
院長　細谷　仁憲
☎275-0636
仙台市青葉区八幡二丁目バス停前



◆学生向きアパート・下宿◆
（株）八幡不動産
仙台市青葉区八幡3丁目18－11
TEL 022（263）3023



バイク買取大王
キング上杉店
携帯・PHSからもOK!
0120-819-858
仙台市青葉区梅田町1-1　☎022-276-1655　9:30～21:00